動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.10.31 No. 3485

動労千葉の組織破壊を狙った

業務移管攻撃は許さない！

動力車乗務員勤務制度改悪が、JR総連・JR東労組と結託した一方的実施にむけて十一月早期集約が策動されている中で、職場の中では再び三たび「業務移管」のウワサが見えかくれしている。九二・三ダイ改の計画が立案されるこの時期に、こうした話が出て来るのは今にはじまったことではない。今年三月のダイ改を前にした昨年の今ごろには、JR総連革マルによる「津田沼から中野への業務移管」がふりまかれ、動労千葉の組織破壊を策動した「業務移管」攻撃がしかけられていた。

今回ふりまかれているのは、「成田空港に乗り入れる列車は東京が受け持つ」「特急列車は東京が受けもつ」「中野電車区から習志野運輸区への乗務員を含めた業務移管が行われる（これを逆業務移管と言うらしい）、すでに中野では広域配転者を中心に習志野運輸区への転勤希望をとっている」などと言うものである。われわれは、この「業務移管」攻撃のねらいが、JR総連革マルと結託した動労千葉破壊攻撃の一環であることをしっかりと見すえ、動乗勤改悪阻止と結合して闘いぬかなければならない。

西日本・東海に始まり、いま九州・四国に移ったJR総連の崩壊は、その最大の焦点として東日本においても始まろうとしている。動乗勤をめぐって「東労組など必要ない」という声に代表されるJR東労組組合員の怒りと不満の噴出は、このJR総連の危機を一層激烈なものにしている。こうしたJR総連の危機が「業務移管」攻撃の背景になっていることはまちがいのないことだ。

われわれは、今年三月のダイ改での「業務移管」―組織破壊攻撃を粉砕した勝利の地へいにたって、一切の「業務移管」攻撃をを許さず闘いぬこう。

それと同時に、中野から習志野への「逆業務移管」という話に見られるように、基地統廃合を含めた動きがついに始まったことを示している。分割・民営化から五年間は行うことのできなかった土地の生みだしが、来年の四月には解禁される。JR東日本では「フューチャー21」にもとずく五万人体制合理化、関連事業の拡大（出向先の拡大）にむけて、乗務員や車両基地の統廃合にむけた攻撃が全面的に始まろうとしている。動乗勤改悪の狙いには、乗務員基地統廃合も含まれていることは疑いのないことだ。

九二・三ダイ改をめぐる攻防は、このようにすでに始まっている。われわれは、動乗勤改悪阻止にむけて全支部でストライキ体制を構築するとともに、反合・運転保安確立、九二・三ダイ改阻止にむけて総決起しよう。

乗務員分科会第十四回
定期委員会に結集を

とき　十一月七～八日
ところ　九十九里センター

動乗勤改悪阻止、九二・三ダイ改阻止へ
強固な闘争体制を確立しよう

九〇・三スト支配介入地労委第九回審問開かれる
当局のスト嫌悪の姿勢うかび上がる

十月十六日、千葉県地方労働委員会において、九〇・三スト支配介入事件の第九回審問が開催され、田中書記長に対するJR側の反対尋問が行われた。

JR側は、地労委に本件ストが「違法スト」との印象を創り出すために「就業規則に違反した職場『滞留』や施設内の集会が行われた」等との質問を行ってくるが、田中証人の明快な答えの前に、逆に当局のストを嫌悪するその異常な姿勢が浮かび上がっていった。

本件は、次回よりJR側証人の立証に入っていく。傍聴体制をさらに強化し、当局側の立証を監視していこう。次回は十一月十八日、証人は江沢千葉支社総務課長。傍聴への結集をお願いします。

十一月四日
団結運動会
家族と共に
参加しよう